

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 28 年度 第 2 回 相模原市総合計画審議会		
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)		
開催日時		平成 28 年 8 月 1 日 (月) 18 時 0 0 分 ~ 20 時 0 0 分		
開催場所		相模原市役所 本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	5 人 (企画政策課長 他 4 人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 1 名
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	開会 1 議事 (1) 平成 28 年度 1 次評価の結果等について (2) 2 次評価の進め方について ア 部会の役割について イ 部会の日程について (3) その他 閉会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 平成 2 8 年度 1 次評価の結果等について

本日の議事(1)「平成 2 8 年度 1 次評価の結果等について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

資料 3 「平成 28 年度総合計画進行管理 1 次評価分析」において、平成 26 年度から平成 27 年度にかけ、実績評価が上がったもの、下がったものに分けて記載されているが、その理由について、担当課の考え方の記載はないのか。

また、施策ごとに、評価が上下したのや変わらないものについて、そのまとめりに共通した要素はあるのか。

各施策に、成果指標や総合的に取り組んでいる事業等を勘案して結果を出しており、昨年度と比較した理由の取りまとめはしていない。

はっきりとした理由がないということであれば、疑問の点について、今後のヒアリングで聞いていくしかないと思う。

後段の質問は、評価の下がった指標については、アンケート調査の結果を基準に、そのまま成果指標にしているものが多いと思う。

担当課で、なぜこのような結果なのかということ把握していることが重要だと思う。また、トレンドの背景を把握していることが望ましいと思う。

そのとおりだが、担当課では、そこまで認識していないと思われる。

ヒアリングだと、担当課の方に個別に話を聞けるが、全体として、なぜこうなったのかと話しを聞く時間はないので、企画部門や研究所部門から、こんな背景があるということをお願い。

それについては、部会のヒアリングと並行する形で、共通性を分析し、回答してもらうような形にする。

審議会で3年ごとに各施策の2次評価をしているが、2次評価をしない施策の1次評価について、時系列的な資料はあるのか。なければ、2次評価をする際の参考としたいので、用意してもらいたい。

2年前の1次評価まで記載した資料はない。各施策の2次評価を実施するに当たり、前回の1次評価の結果については資料として提示しているが、ご要望のあった資料については、部会の時に用意させていただく。

(2) 2次評価の進め方について

本日の議事(2)「2次評価の進め方について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

改善工程表の中で、ヒアリングをするものと、しないものがあるとのことであるが、その仕分けは、どのような理由で判断したのか。

2次評価が、3年前の前回の評価と変わらず、今回もB評価だったものが4施策あることから、それについて特に改善を促していく必要があると考え、より重点的にヒアリングを実施していただくため、今回、ヒアリングを実施するものとし、しないものに分けている。

改善工程表は、通常、全てヒアリングを実施していたが、今回は数が多いということ、B評価が続いているものがあるということ、本年度から新たに地方創生に関係するものが増えたということ、また、2次評価を重点的に実施いただきたいことから、このような形に変更した。

事務局においてヒアリングが必要かどうかの判断は、改善がされているか、されていないかとの判断だと思うので、事務局が選んだ4施策と他の施策について、それぞれ特徴や性格を整理しておいた方が良いでしょう。

時間がかかるのであれば、時間配分を変えるやり方もあるのではないかと。

2次評価をするものと改善工程表のモニタリングをするものは、前回まで30分としていたが、今回からは2次評価に時間をかけたいと考え、前回よりも10分延長したのが大きな変更点である。

そうすると全体の時間が相当長くなってしまっているので、改善工程表については、前回からあまり改善がなされていないと考えられる施策を抽出し、改善工程表のモニタリングのヒアリングをするものと、しないものに分けたということが、昨年までの考えと大きな違いである。

基本的には、前回3年前にB評価であり、今回、何らかの改善が必要であると考えられるB評価の施策が4施策あるが、今後は、改善が必要であると思われるものを中心にモニタリングのヒアリングをしていきたいと考えている。

事務局の説明のように、まず2次評価をするものについて、よく話を聞くことを重視することにしたので、ヒアリングをしないものも出てくるが、それはあくまでも改善工程表についてだけを対象にするということである。

昨年度のヒアリングのやり方だと、質疑が終わった後に担当課は退出するが、質疑の指摘を受けて変えたいと考えるのか、質疑を受けてディスカッションしている内容を聞きたいのか、何の情報か欲しいのかというところが大事だと思う。ディスカッションにおいて、所管課が持っている論理と委員が持っている論理の違いを確認したいのであれば、ヒアリングの最後まで退出しない方が良いでしょう。

ヒアリングの中で質問をするというよりも、こちらから意見を言う形でヒアリングを進めている。最後に担当課が出ていくのは、その場にいると最終的にA B Cの評価を決め難いだろうとの事務局の考えだと思う。そこで担当課は退出し、局の総務室の職員だけが残り、最終的な結果について講評を聞くという仕組みを取っている。

先ほどの時間の話のように、最終的な講評について、委員同士で議論をしている時間はないので、担当課には「この点は注意してください」「この点は改善をしてください」のように、意見として言うようにしている。

評価に当たって所管課が残ることに抵抗がないということであれば、どういう評価をしているのかを聞いた方が今後の改善になると思うので、所管課も最後まで残っていても良い。

資料4 - 1、3ページのオ「総合分析及び市の自己評価（1次評価）が適切であるか」の後段で、成果指標との関係のところでは例が出てくるが、これは各局にこういう形で説明したのか。総合評価については、成果指標と業績評価指標のみで評価しているわけではなく、昨年度の総合評価や本年度の1次評価の結果に注目し、指標の達成だけではなく、達成に当たっての施策の実施の仕方、行政の改善の仕方を見て、本年度の評価をしている。

ここの例を見ると、あまりにも「成果指標、業績指標でお考えください」となっているが、これだけではないと思う。前年度の総合評価がBで、本年度もBであれば、例えば例1の場合は「成果指標B、業績指標Bの場合は、Bの評価になる」と言っているが、私の場合は、改善されていないから総合評価がC評価になるということも過去にある。委員の評価内容やヒアリングで得た印象、感想を共有したもので判断するので、その辺を考えてもらいたい。

また、ファイルの資料の最後に、地方創生交付金の4のところ、1「子育て情報誌多言語化事業委託」については、「平成28年度末の実績が出ていないため算出できないことから評価しない」とあるが、これは本当に評価しなくて良いのか。

その点については、子育てガイドの外国語版を作り、外国人の方に配布するという内容になるが、昨年度印刷したものを本年度から配布するという形をとっており、実績が出ていないので評価ができないと考えている。

これまでの冊子や、外国人児童数の増加等がある程度踏まえながら、KPI達成の結果が出ていないとしても、何らかの触れ方をしておく必要があると感じる。

もう1点は、指標の2番目「保育専門相談事業の拡充」の中で、「子育てに関する相談等に来られた方への相談支援、案内の実施率100%との目標値が掲げられているが、これは、進行管理シートに出て来ないのか。

細かい事業名として、これに関連する内容の記載はない。

これを評価しようとする、100%の右側に「地方創生に非常に効果的であった」とあるが、情報提供がないのであれば、このように言うしかないのでは

ないかと思う。資料4-1の最後の意見のところ、「有効であった」「有効とは言えなかった」とあるが、この指標に関して、本事業の良かった点、評価する点は両方ともないのか。

このシートの中には、これを評価できる実績値のようなものはないので、ヒアリングの際に、相談の件数がどうであったかというものを追加でお示しするようにしたい。

私の方でも、過去10年くらいの相談件数についてデータをもらえるように依頼しているが、何らかの判断が出来るデータがなければ、評価のしようがないと思う。

この地方創生の案件については、2次評価をしなくても良いということか。

他と同じような形で、施策の2次評価というものは必要ない。ただし、この事業そのものがどうだったかということに対して、担当課において1次評価をしているので、“個々の指標”について意見をいただきたいと思う。しかし、事業によっては、今回初めての事業もあり、この施策に関連する事業を見ても記載されていない事業もあるので、ヒアリングまでに別途、情報を提供する形で所管課と調整していきたいと思う。

自己評価だけでなく、外部有識者にも評価してもらいなさいというのが国の要求なので、我々としても意見を出さなければならないと思う。これがなければ、進行管理シートでやれることをやり、あとはそこで出た意見を踏まえて、事務局の方で取りまとめて提出するようなやり方でも良いと思う。

部会の中で、文言とか評価のことをしっかりと決めるのではなく、それらを事務局が取りまとめ、この評価で良いかと最終的に確認していただく方式ならやれると思う。まだ本年度から始まったばかりの取組なので、委員が評価しやすいような準備を進めたいと思う。

これから評価をするに当たり、この指標でこういう結果を導いて良いのかという質問が出てくると思う。例えば、資料の施策3「子どもを生きやすい環境の整備」において、成果指標として合計特殊出生率に評価を求めてきたが、内容的には「もっと子どもを増やそう」という指標について、「生きやすい環境の整備」とソフトに書いてある。

相模原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンを見ると、少子化の要因については違うことが書いてあり、若者が結婚しない、就職により転出するといった時に、安心して育てられるというのは一つの要素ではあるのだが、ここでは、それが要因とは書いていない。今後は、指標を変化させていくという柔軟な対応が必要になってくると思う。

残念なのは、成果指標の目標値が平成 31 年の目標値になっていること。それを毎年度少しずつ高めていき、平成 31 年に目標を達成するのだが、本来はそこを変えなければいけない。

次の総合計画を策定するときには、過去の学習成果を見て指摘をするのが必要となる。これでいえば、成果指標に合計特殊出生率が入っていて、業績評価指標にも合計特殊出生率が入っているというのはおかしい。この辺も、ヒアリングの際には注文を付けておく必要がある。

10 年間という時期においては、中間で見直すべきではないかと思うので、これまでの指摘を踏まえて次に望みたいと思う。ただ、成果指標はすぐに変えられないので、業績評価指標を変えてきたが、まだ改善するところがあるので、しっかりと受け止めていきたいと思う。

今の話は、資料 4 - 1、3 ページの「 成果指標との関係」のところで、「業績評価指標については、指標の妥当性を欠くと思われるものは、平成 29 年度以降に改めて見直しを行うために審議会から意見を付す」ということについて、この指標の妥当性そのものや、この施策の成果を判断するうえで、指標や目標をこのプランで見べきなのかということに触れているのか。

そうである。

一方で、目標値や基準値は柔軟に変更されている。それぞれの局の判断で注釈を付け、こういう理由で変えたと書いてあるが、それで良いのか。総合計画審議会で目標値が決められたのだから、形式的には審議会で議論をして変えた方が良いのではと思う。

国の目標値の変更に合わせて変えたものがあるが、基本的には、審議会に諮り、承知してもらうのが本来の形であると思う。

(3) その他

議事(3)「その他」について事務局から説明願いたい。

国会の予算委員会などで、直接関係のない質問が入ることがあるが、今回、津久井で発生した事件について、審議会で議論したりとか、市の考えを話す機会はないのか。

市議会で、議員には、概要について市から情報提供をしたり、それに対して質問を受けるということを行っている。この審議会の中では、部会の中で所管部署がいる場合、ヒアリングで関連した質問をすることは良いと思う。

改善工程表のモニタリングでヒアリングを実施しない施策についても、ヒアリングシートを作成し、意見を記入して御提出していただき、その意見を基に評価としたいが良いか。

そのように進めてもらいたい。

第3回の審議会については、9月から10月にかけて開催したいと考えている。

他に意見等がないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会 椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		欠席
2	岡本 真佐子	青山学院大学地球社会共生学部 地球社会共生学科教授		出席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科教授	副会長	出席
4	佐藤 慶一	公募		出席
5	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都 市コース・大学院都市環境科学研 究科都市システム科学域准教授		出席
6	林 恵子	公募		出席
7	宮 久美子	公募		出席
8	三好 上次	公募		出席
9	横川 剛毅	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席